

# 高知県の昆虫類

## 【現 状】

高知県の気候帯は暖温帯<sup>だんおんたい</sup>に属していますが、南からの黒潮の影響で海岸沿いは暖かく、また北は 1,500m 以上の山々が連なっているので植物層も豊富<sup>しほくほうじゆ</sup>です。昆虫も亜熱帯から亜寒帯性の昆虫までたくさんの種類が見つかっています。現在では 10,000 種近くが高知県から記録されています（写真1～6）。



写真1. トサヒラスゲンセイ  
高知県を代表する南方系の甲虫の一つ。幼虫はクマバチの巣に寄生する。高知県レッドデータラングー準絶滅危惧。



写真2. ヒメオオクワガタ  
四国では山地のブナ帯でしか見られないクワガタムシ。高知県レッドデータラングー準絶滅危惧。



写真3. サツマニシキ  
南方系の昼飛性の蛾、年2回発生する。



写真4. オオテントウ  
日本最大のテントウムシ。高知県レッドデータラングー準絶滅危惧。



写真5. ベーツヒラタカミキリ  
南方系のカミキリムシ。幼虫はシイ類の大木の枯れた部分を食べる。高知県レッドデータラングー絶滅危惧 IA。



写真6. アカギカメムシの集団  
温暖化の影響か、十年ほど前から高知県の南端部で沖縄諸島と同じような集団が見られるようになった。高知県レッドデータラングー保護すべき地域個体群。

50 年ほど前までは高知県は昆虫の宝庫と言われ、ウミホソチビゴミムシ、オオクボカミキリ、クロソソホソハナカミキリ、イシハラカンショコガネ、多くの洞窟性ゴミムシ類などが新種として発表されました。その当時と比べると、現在では、里山の荒廃、自然林の減少、開発による環境破壊、生息環境の分断、気候の変化などによって、昆虫の数は減少しました。

高知県ではすでに絶滅した、あるいは絶滅したのではないかとされている種がいくつかありますが、それらのほとんどが里山の雑木林や、池、沼、湿地、草原などで見つかった昆虫です。

## 【変化】

現在では50年前とは比較にならないほど昆虫全体の数は減っています。枯れ木や倒木の上をたくさんのカミキリムシが這っている、あるいはノリウツギなどの花に群がっているような光景は最近では見る事が出来ません。

近年、四国山地ではニホンジカの食害がひどく、林床の草が壊滅的な被害を受けた場所も少なくありません。食害によって林床の環境が変わり、昆虫の生息にも大きな変化をもたらしています。一方今まで少ないとされていた種がニホンジカの食べない草を食草としているために増加している現象も起こっています。また、温暖化の影響か南方系の昆虫が見つかる例が急増しています。

## 【人との関わり】



写真7. タガメ  
高知県レッドデータランカー  
絶滅危惧 IA。

1970年代後半ごろからだんだんと昆虫全体の数が減ってきた感があります。ちょうど自然林が切り払われて、針葉樹の植林が増え、それが生長してきた時代にあたります。また、人間の生活様式の変化によって里山が荒れてきました。里山は人間が手を入れて、作り上げられた生態系を作っていました。ここに適応した昆虫類の中には、里山の自然環境の変化に伴って見られなくなった種がいくつもあります。例えば、牧場や山里に見られたチャマダラセセリ、堤防や採草地のように人間が草を刈ったりして手入れをしてきた場所に見られたオオウラギンヒョウモンなどは姿を消しました。また道路建設や開発によって池や沼が埋め立てられ、タガメ（写

真7）やゲンゴロウ（写真8）などの姿が見られなくなりました。

植林された針葉樹の林が成長すると林床が暗くなり、林の中の下草が生えなくなります。太陽の光が林床まで届くように間伐すれば良いのですが、高知県では間伐されずに放置された植林がたくさんあります。このような林では棲むことのできる昆虫は限られています。現在は好適な自然環境が分断され、山の上の方だけに自然林が残されていて、そこから下はすべて針葉樹の植林になっているような山では、自然林は海の中に浮かんでいる小島のようなものです。事実、そういう環境の昆虫を調査すると、昆虫の数は多くても、種類数が少ない現象が見られます。

また、最近では南方系の外来種の発生や発見が多くなっています。気温の上昇や自然環境の変化も関係していますが、人間によって運ばれて分布を拡げたものも少なくありません。昨年県下で広く見られたクロマダラソテツシジミは、植栽されたソテツについていたものから広がったものでしょう。秋の夜、やかましいほどに鳴いているアオマツムシはおもにソメイヨシノの植栽によって広がったものです。

高知市の何ヶ所かで指定されている国の特別天然記念物であるミカドアゲハは、昔はかなり少なかったのですが、今では海岸から平地にかけて広く見られ、それほど少ないチョウではなくなりました。幼虫の食樹オガタマノキが公園や学校の庭などにたくさん植えられるようになったこと、もともと南方系のチョウなので地球温暖化による気温の上昇も関係しているのかもしれない。

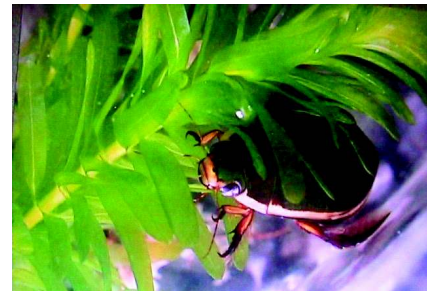


写真8. ゲンゴロウ  
高知県レッドデータランカー  
絶滅危惧 IA。

中山 紘一（高知昆虫研究会）